

令和2年度青森市社会資本整備評価委員会 会議概要

1. 開催日時

令和2年11月12日（木） 9:30～11:00

2. 開催場所

青森市役所 議会棟 第2委員会室

3. 出席者

《委員》

委員長 足達 健夫
副委員長 松野 美智子
委員 大坂 美保、松田 英嗣 計4名

《事務局》

都市整備部 部長 平岡 弘志、理事 高村 功輝、次長 佐々木 浩文
都市整備部都市政策課 課長 坂牛 裕、外2名

《案件担当課》

都市整備部都市政策課 副参事 武田 泰孝 外1名
都市整備部道路建設課 課長 小笠原 秀輝、副参事 嶋守 亮、外2名
環境部下水道整備課 課長 松尾 剛、外2名

4. 審議案件

《公共事業再評価》

- ・案件第1号 青森駅周辺整備推進事業
- ・案件第2号 油川新城線道路整備事業
- ・案件第3号 浅虫ダム線道路整備事業
- ・案件第4号 佃地区融流雪溝整備事業

《社会資本総合整備計画事後評価》

- ・案件第5号 公共下水道事業 [青森市における循環のみちの実現]
- ・案件第6号 公共下水道事業 [青森市の下水道における防災・安全対策の実現]

5. 案件資料

《公共事業再評価》

- ・公共事業再評価調書
- ・説明資料

《社会資本総合整備計画事後評価》

- ・社会資本総合整備計画事後評価書
- ・説明資料

6. 会議概要

公共事業再評価について案件第1号～第4号の審議を、社会資本総合整備計画事後評価について案件第5号～第6号の審議を行ったが、市の評価結果に対し異論はなかった。

以下、主な意見、質疑応答の内容。

発 言 者	内 容
委員 都市政策課	<p>【案件第1号 青森駅周辺整備推進事業】</p> <p>青森駅西口のこれから広場として整備する箇所に、バス停はなかったのか。</p> <p>現在は、青森駅西口から少し離れたところにある集合住宅の前に、駅西口というバス停が設置されており、西口にはバス停は設置されていない状況である。</p>
委員 都市政策課	<p>今回、そのバス停は移設するのか。</p> <p>今後どのような路線運行になるかによるが、西口駅前広場が完成した段階では、バスの乗り入れもできるようになることから、西口駅前広場内にバス停が設置され、乗り降りできるようになるものと考えている。</p>
委員 委員 委員 道路建設課 委員 道路建設課 委員 道路建設課	<p>【案件第2号 油川新城線道路整備事業】</p> <p>防災面で、津波等の被害があった場合に、地域住民の避難路が増えるのでとても良いと思う。</p> <p>費用便益比は1に満たないが、この道路ができることにより、フェリーに乗り込む大型トラック等が迂回できるようになるので、市内の通常生活の移動のスムーズさということに関しては、利便性が上がるのではないかと考える。</p> <p>ガーラタウンに至る現在の道は、渋滞が発生しているのか。</p> <p>一般国道7号との交差点で、右折車が多く、休日は渋滞が発生している。</p> <p>費用便益比が1を切った理由は何か。</p> <p>5年前の再評価時の費用便益比は、地域修正係数を乗じて1.121と1を上回っていたが、費用便益比の算出方法が、執行済の事業費等を現在価値化することとしており、その結果、事業費が膨むことから、今回は1を切っている。</p> <p>事業期間が長引けば長引くほど、そうなる傾向があるということか。</p> <p>そのようなことになる。</p>

委員	事業期間は、いつまでか。
道路建設課	現時点では令和 10 年度までを予定している。
委員	令和 10 年度であれば、次回の再評価の時はどうなるか分からないが、事業を中止するより継続したほうが良いということか。
道路建設課	そう考えている。
委員	可能な限り、急いで整備していただきたい。
【案件第 3 号 浅虫ダム線道路整備事業】	
委員	東通原子力発電所で事故があった際は、半径 30 キロメートル圏内の 7 万人が青森・弘前方面へ避難してくる予定となっていることから、迂回路となる本路線をなるべく早く整備していただきたい。
委員	交通量はあるのか。
委員	浅虫地区の住民の方は、花火大会の時などは、国道 4 号よりは、こちらの路線を通ったほうが早いということで利用している。
委員	本路線は、生活道路になっているのか。
道路建設課	生活道路にはなっていない。
委員	民家はあるのか。
道路建設課	久栗坂地区から入って、700 メートルほどのところまでは民家が数件ある。
【案件第 4 号 佃地区融流雪溝整備事業】	
委員	これから整備を考えている場所に、市民の雪寄せ場は何箇所あるのか。
道路建設課	資料を持ち合わせていないので、後ほど回答する。(委員会後、3 箇所と回答。)
委員	融流雪溝がない現状で、空き地がどの程度雪寄せ場になっているのかを知りたかった。
	融流雪溝はあった方が良い。
委員	道路の幅員が狭いと思うが、工事は出来ているのか。

道路建設課	融流雪溝は両側に整備するのではなく、片側に整備し、それを両側の市民の方々でおいいただくという手法をとっている。
委員	融流雪溝に常に水が流れている状態なのか。
道路建設課	融流雪溝の整備後は、地域の方々で管理組合を設立し、維持管理を行っていただき、地域の方々が見込まれるときは電源を入れている。 24時間のうち2時間は、電力会社との契約上使用できないことになっている。
委員	使える曜日や時間帯が決まっている訳ではなく、地域の方々で判断しているということか。
道路建設課	そのようになっている。
委員	融流雪溝を整備した路線は、除雪の必要性が下がるということで、除雪の対象路線から外れるのか。
道路建設課	除雪の対象路線から外すということはない。
委員	市として、融流雪溝の利用状況はデータとして収集しているか。
道路建設課	融流雪溝の利用状況に関するデータの収集は行っていないものの、地域の多くの方々に日頃からお使いいただいている状況である。
事務局	融流雪溝を整備した路線についても、除雪は行っている。 ただ、融流雪溝が整備された路線では、自宅前の寄せ雪も融流雪溝で処理できるようになることにより、排雪の回数については軽減されることから、融流雪溝の整備は有用であると考えている。
	【案件第5号 公共下水道事業 [青森市における循環のみちの実現]】
委員	下水処理人口普及率というのは、下水道管が繋がった家の人口の割合のことか。
下水道整備課	下水道が整備されていて、接続すれば下水道を利用できる人口の割合のこと。
委員	実際、下水道に接続しているかどうかではないということか。
下水道整備課	管渠の工事後すぐに、全ての家庭が下水道に接続するというのではなく、宅地内の工事費もかかるので、必要に応じて水洗化していただいている。 下水道を利用したい方が利用できる状況になるため、事業の効果は出ているものと考え

委員	えている。
委員	下水道に接続すると、下水道使用料が水道料金に加算されることを、市民に説明する必要がある。
下水道整備課	管渠の工事自体に時間も費用もかかるのか。
委員	下水道管は深い位置に埋設するため、工事の時間等はかかる。
委員	生活排水をそのまま用水路等に流している方もいることから、環境面を考えても、早く進めていただきたい。
【案件第6号 公共下水道事業 [青森市の下水道における防災・安全対策の実現]】	
委員	浸水対策達成率の分母となっている「浸水対策を実施すべき面積」は国が決めるのか。それとも市が決めるのか。
下水道整備課	雨水対策事業は、市が事業計画を作成し実施していることから、分母の「浸水対策を実施すべき面積」は、市が作成した事業計画の全体面積となっている。
委員	ポンプ場のポンプは、雨が降ったらすぐ稼働するものではなく、ある程度の降水量があると稼働するのか。
下水道整備課	水が、ポンプ場のポンプ槽の中に溜まって、ある程度まで水位が高くなると、ポンプで汲み上げて排水する構造となっており、常時動いているものではない。
委員	自動監視でポンプが稼働するのか。
下水道整備課	強い雨が降ると予想される場合は、流入量に備えて、手動でポンプ場の水位を下げていますが、通常は、ある程度の水位になったら自動でポンプが稼働して汲み上げるという体制をとっている。
委員	ポンプ場には、停電時の非常電源も整備されているのか。
下水道整備課	自家発電装置を設置している。